



## この夏も話題にしてほしいこと

校長 岸本 政和

先日の全校朝会で、「戦争・平和・いのち」について、次のような話をしました。

今から80年ほど前の第二次世界大戦で日本軍が使用していた戦闘機が、鹿児島県にある万世特攻平和祈念館、知覧特攻平和会館という施設に展示してあります。施設の中には、当時の特攻隊員がつかっていた物や資料が展示してある他に、特攻隊員が出撃するまでの生活や、復元された戦闘機などが展示されています。

鹿児島県は、日本のほぼ南端にあります。第二次世界大戦当時、鹿児島県には多くの特攻基地や訓練施設、飛行場があったそうです。沖縄まで攻めてきた敵の戦艦に対し、戦力で劣る日本軍が、爆弾を積んだ戦闘機で操縦士ごと体当たりさせて、戦艦を沈めようとした、とても残酷な作戦でした。

この作戦に選ばれた隊員は特攻隊員といって、17歳から32歳の若い人たちで編成されていました。訓練を重ね、前置きもなくいきなり前日に出撃命令を出され、戦艦に体当たりをしなければならぬ、この作戦で命を落とした特攻隊員は1,036人にのぼるそうです。知覧特攻平和会館には、この亡くなった1,036名の遺影や手紙、遺書や遺品が展示されています。

今の日本はこの戦争の後、一度も戦争をしていません。もちろん、戦争がないから平和だとも言い切れません。しかしどうでしょう。皆さんの時代にこのような戦争があったとしたらどう思いますか？ もしもあなたや身の回りの人が、特攻隊として敵艦に立ち向かわなければならぬとしたら、どう思いますか？

今年の夏も戦争に関する話題をネットやテレビ、新聞などで目にしたいと思います。この機会に、戦争・平和・いのちについて、ぜひお家の人と一緒に考えてみてください。

【学校だより用に、一部体裁を整えてあります。】

我が家には大学1年の息子と高校1年の娘、そして小学6年の息子がいます。その中の娘が中学1年の頃、学校生活に馴染めず体調を崩したり、自身を傷付けたりするようになっていました。そんな娘のリクエストに応じてあげようと赴いたのが万世特攻平和祈念館・知覧特攻平和会館でした。社会科が好きな娘のリクエストだからと、当時現地に赴いたきっかけは異なりますが、館内見学を通して「現代において、教え子を、若者を、我が子を、もしも戦争に送り出さなければならなくなったら…」と、見たこと、感じたことを今回、子どもたちに話をしたところです。

戦後81年が過ぎようとしています。時代とともに戦争体験者も数少なくなってきました。戦争と平和について語ることができるのは、語り継がれてきた者や残されてきた物のみとなります。

この機会に、戦争・平和・いのちについてご家庭でも話題にいただけるとありがたいです。